

研究・調査報告書

報告書番号	担当
381	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Comparison between self-reported facial flushing after alcohol consumption and ALDH2 Glu504Lys polymorphism for risk of upper aerodigestive tract cancer in a Japanese population. 日本人上気道消化管癌のリスクについて、飲酒後に顔面紅潮があるかについての自己報告と ALDH2 Glu504Lys 遺伝子多型との比較。	
執筆者	
Oze I, Matsuo K, Hosono S, Ito H, Kawase T, Watanabe M, Suzuki T, Hatooka S, Yatabe Y, Hasegawa Y, Shinoda M, Tajima K, Tanaka H.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cancer Sci. 2010 Aug;101(8):1875-80. Epub 2010 Apr 23.	
キーワード	
顔面紅潮、日本、ALDH、上気道消化管癌、条件付きロジスティック回帰モデル、遺伝子多型、アルコール	
要旨	
背景： アルコールを飲んだ後に顔面紅潮を示す日本人がいる。顔面紅潮はアセトアルデヒド血症によって引き起こされると考えられている。血液中のアセトアルデヒド濃度上昇はアセトアルデヒド脱水素酵素(ALDH)の触媒作用の活性と関係がある。ALDH2 酵素活動の変調が起こることにより、アセトアルデヒド脱水素酵素(ALDH)-2 遺伝子多型 (ポリモルフィズム) (rs671、Glu504Lys)は上気道消化管(UAT)癌に関連していることが知られている。顔面紅潮が ALDH2 遺伝子多型の代理マーカーとして UAT 癌の危険を予測する際に役に立つかどうかについては論議の余地がある。	
目的/方法： 我々は、UAT 癌のリスクと顔面紅潮、ALDH2 遺伝子多型の関連を評価するためにケースコントロール研究を行った。愛知がんセンターの 585 人の UAT 癌患者をケースとし、癌患者でない対応した 1170 人の外来患者をコントロールとした。顔面紅潮と他の生活環境因子に関する情報を自己記入質問紙で集めた。顔面紅潮、遺伝子多型、UAT 癌との関連について条件付きロジスティック回帰モデルを使用し、オッズ比と 95%の信頼区間で評価した。	
結果： ALDH2Lys 対立遺伝子座(allele)は UAT 癌に有意に関連していたが、顔面紅潮は UAT 癌と有意な関連はなかった。顔面紅潮と ALDH2 遺伝子型の誤分類はコントロールの ALDH2 Glu/Glu 遺伝子型 18%とコントロールの ALDH2 Glu/Lys 遺伝子型 16%で観測された。	
結論： UAT 癌の危険を予測するには顔面紅潮は ALDH2 遺伝子多型ほど役に立たなかった。	